

コウヨウザン(ヒノキ科常緑針葉樹)

コウヨウザンは中国南部や台湾が原産で日本には江戸時代に入ってきたとされています。ここ庄原市は国内有数の造林地が存在し、早い成長と萌芽更新（切り株から新しい芽が再生する）や材の強度が高いことから林業において新たな早生樹として注目されています。この早生樹の特徴を活かし、将来的に短期間でまとまった木材の調達及び供給ができるよう林業のモデル地域とされています。



コウヨウザンの特徴

葉の形状

⇒日本のスギの葉より幅が大きく、先端に触れると痛みを感じるほど非常に鋭い形状をしている。

成長が非常に速い

⇒スギやヒノキと比較し成長が著しく早く、植栽後約30年から40年程度で収穫可能なサイズまで成長する。そのため、再造林コストの低減や短期間での木材の調達が可能となると期待されている。

萌芽更新及び強い再生力

⇒伐採した切り株から新しい芽がでる。また、枝が地面につくとそこから根が出て新しい樹木を形成する。新たに植栽する手間を省けるため低コスト化につながる。

病害虫への対応

⇒腐りにくく、シロアリなどの食害にも強い。一般的にも病気や病害虫による被害が少ないとされている。

木材の性質と用途

⇒庄原の材はスギを上回り、ヒノキに近いヤング係数、曲げ強度を持っており、材は淡黄色から白色で光沢がある。また、高い強度があることから建築材、家具、LVLなどと幅広く利用ができる。一方で利用できない部分については、バイオマス燃料等に利用が可能である。

コウヨウザンの植栽と生育状況(組合の取り組み状況)



最後に

コウヨウザンは、苗木の供給が不十分であることやノウサギ等の獣害に弱いというデメリットがある。特に若い苗木においてはノウサギの食害を受けるリスクは高く、ツリーシェルターなどの適切な防除を行っていく必要がある。それでも地形や気象条件等が重なり、獣害が防ぎきれないケースもある。この庄原地域においてもノウサギが柔らかい芽を好んで食べ、被害が発生している。

これらのデメリットがあるが、コウヨウザンは非常に成長が早く、萌芽更新及び再生能力が高く、ヤング係数もスギを上回りヒノキに近い曲げ強度を持っていることから、短伐期林業での有望な樹種として期待されている。

今後もコウヨウザンの性質を理解するとともに、新たな用途について家具メーカーや製材工場等と連携し、利用促進を行っていききたい。



備北森林組合

